

# ユーザーレポート

# — 0の証明 —

# User Report

■ 個人

## 飲酒運転を防ぐ最善の方法は、 飲酒をしたら機械的に運転をできなくする事。

アルコール・インターロック装置を個人のクルマに装着されたご家族にお話を伺いました。

装着を依頼されたのは、飲酒運転をする81歳のお父様に悩む息子さんです。同じように、家族や身近な人の飲酒問題に悩みを持つ方の参考になればと、導入に至るまでの経緯と葛藤を赤裸々に語っていただきました。

ご利用機器

### ALC-ZERO II



### 父はアルコール依存症でした

私の父は81歳です。65歳まで建設系の仕事をしており、77歳頃までアルバイトとして続けていました。昔からお酒は飲んでいましたが、仕事を辞めてからは毎日ダラダラと飲む時間が増えていきました。父は心臓の調子が悪く、不整脈で3回ほど入退院を繰り返しています。医師からの指導もあり退院直後はお酒をやめますが、体調がよくなるとすぐにお酒を飲み始めます。そして飲酒後に車に乗って出かけることがあるそうで、母から注意してほしいと連絡が来ました。私や姉が注意をするとその場では「わかった」と言います。しかし実際の行動が伴いません。誰が注意をしてもお酒をやめない、というよりもやめられないので、父はアルコール依存症なのではないかと疑うようになりました。

そこでアルコール依存症について調べてみたところ、やはり父の行動は依存症の症状と合致しました。それからはお酒をやめさせることよりも、飲酒運転をやめさせるにはどのように説得をしたらいいのかに頭を悩ますことになりました。



### 『父を逮捕してください』

私はまず警察に連絡をして「父が飲酒運転をするので逮捕してほしい。できれば免許証を取り上げてほしい」と訴えました。すると警察は「飲酒運転は現行犯でなければ逮捕できません。そもそもその年齢なら、免許証を返納してはどうですか。ご家族でよく話し合ってください」と返されて、それ以上は相談に乗ってくれませんでした。

そこで次に保健所に連絡をして、飲酒運転をしてしまうのでどうにかならないかと相談をしました。ところが保健所は「その年齢ですと難しいかもしれませんね。ご本人はお酒をやめたいという意思がありますか。周りの家族が病院に入れたいと言っても無理強いはできません。本人にその意思がないと人権の問題になるので」とのこと。「放っておくと飲酒運転で人に危害を加えるかもしれない、それでも依存症の治療はできないのですか」の問いにも「ご家族からの依頼だけでは保健所は対応できません」との返答に終わったのです。結局、複雑な家族の悩みはどこに連絡をしても親身になってくれるどころか、相談にすら乗ってくれないことがわかりました。



今の日本の縦割りの行政は、管轄外の仕事はしない、何か事が起こらないと介入しないスタンスなので、今回のようなアルコール依存症と飲酒運転、高齢者の自動車運転などの問題が複雑に絡み合うとこは解決ができない、相談する所もないんだと落胆し困り果てました。

依存症の人やその家族がお酒をやめます、やめさせたいと常に相談できる状況であれば、依存症患者は増えないと思います。それに父の体も心配でしたが、万が一飲酒運転事故を起こし加害者になってしまうことも毎日心配でたまりませんでした。事故を起こせば、私たち家族も父を放置していたと責められるのは十分わかっているからです。しかし解決の方法が閉ざされ八方塞がりでした。

# ユーザーレポート

# User Report

ユーザーレポート

— 0の証明 —

■ 個人

## 高齢者の事故は都会の話

当の父はわがままで自分中心的な考え方でした。車の運転に関して「高齢者の事故なんて都会の話。こんな田舎で人も車もないところで事故など起きない。飲んで運転するといってもほんの少しなので大丈夫だ」と、高齢者運転の問題と飲酒運転の問題と混同させて、まったく話し合いになりませんでした。

それにアルコール依存症の父は嘘をつきます。家族全員（母、姉、私）がお酒を飲むのをやめるように言うことで、隠れて飲むようになりました。その頃には、父は何を言っても話を聞き入れることをしなくなっていました。それでも私は、お酒を飲むのをやめるように、飲酒運転をしないように、繰り返し注意をする中で、ある時ついに大喧嘩となり「もう家に来るな」と言われ関係が悪化し、注意することすら難しくなっていました。

このまま飲酒運転を続けるのであれば、車を取り上げるしかありません。しかし田舎の生活は車が無いととても不便です。最寄りのコンビニまでは1Km、街中に出るには5Kmもあります。それに年老いた父親です。好きなようにお酒を飲ませてくれという言い分もわからなくもないのです。最悪、免許証を取り上げて、運転できないようにする手段もあるだろうけれど、車に乗ることが生活に直結しているために、足がなくなることで痴呆になってしまうのではないかと、ということも気になりました。そこで代金は私が払うから、タクシーを利用するように提案してみたのですが、そこにお金をかけることはしたくないとのことで、頑として受け入れてもらえませんでした。



## アルコールインターロックを知って

2023年2月26日、飲酒運転をどうにかしなければという思いから、あれこれと調べていく中で、東海電子のアルコールインターロックを知りました。すぐに東海電子に連絡をしてみると親身に話を聞いてくれました。車両の情報などもお伝えして、取り付けの準備を進めようとしたところで、インターロックに猛反発した父が大喧嘩になってしまい、一旦は断念せざるを得なくなりました。それから1年の期間を空け、再度父と話し合いをすることができました。

その話し合いの前段階では「年輪的にも、免許証を返納してほしい」とお願いをしました。なんとか説得し、ようやく免許証返納に納得させたところで、趣味のカラオケ仲間のおばさん（悪友）に『なんで返納するの？まだまだ若いんだし運転もできるんだからもったいないでしょ』とされたことで一変、次の免許証更新まで1年ちょっとあるのでそれまでは免許証返納はしないと言い出したのです。私は父に『車を運転するのならお酒をやめてくれ！お酒もやめない、車も乗る！』というなら、アルコールインターロックを付けてくれ！』と懇願しました。そこでやっと父がアルコールインターロックについて聞く耳を持ってくれたのです。

念願のデモ機を取り付けることができたのは、初めて東海電子へ連絡をしてから1年越しとなる2024年2月のことでした。

父はアルコールインターロックを取り付けてから、運転しなくてはならない日の飲酒は少し控えているようです。しかしお酒の量は減っていません。病院に行く前日くらい、お酒をやめればいいのに飲まない日はないです。



## アルコールインターロックの効果

アルコールインターロックを取り付けた当初、父は使用するのが面倒くさいなど色々文句を言っていました。たぶんアルコールが検知され、エンジンがかからず、乗れないことが多くあってイライラしていたのだと思います。何度か抵抗されることもありましたが、自分で取り外そうという考えもないので、渋々使用している状態です。

1日に何度トライしても運転ができないことがあったようですが、本人も酒気帯びの意識はあって、致し方ないと納得をしている感じではありません。これまで趣味のカラオケに行った際に、その場でお酒を飲んでいるのが分からず不安がありました。でも今は安心して車で行かせることができます。他人に測定してもらおうという不正もできるのかもしれませんが、父はそこまでの知恵は持っていないと思います。一度、東海電子に依頼をし、測定中の顔写真データを見せてもらいましたがすべて父の画像でしたので。

# ユーザーレポート

## — 0の証明 —

# User Report

■ 個人

## 高齢者である父。その後

高齢者は免許を返納しても運転をしてしまう事がよくあると聞きます。社会との唯一の繋がりが車（免許証）であって、歩いて行ける場所だけの生活になってしまうのかわいそうかと思えます。それに田舎の生活ですと、やはり車が重要です。高齢になってから住み慣れた場所を離れて、交通機関が発達している都会に引っ越すことは現実的ではありません。最善の方法は飲酒をしたら機械的に運転をできなくする事だと考えます。

父は正直アルコールインターロックを煩わしいと思っています。ご近所や友達にも話さないことから隠しておきたい事のようにもあります。アルコールインターロックの装着は父以外の我々家族だけが喜んでいられる部分もあると思います。でも父に飲みすぎだと口うるさく注意することはなくなりましたし、お酒自体をやめさせようとするのをしなくなったので、そういった面で父のストレスも少しは無くなったのではないかと感じています。

今回の免許更新は1年半後です。年齢的に、まずは安全運転できるかを注視し、さらにインターロックをこのまま装着し続けるという条件を入れて、運転をさせるか決めたいと思います。



## アルコールインターロックを取り付けることによる安心

物理的に、飲酒運転を阻止することができるアルコールインターロックは、家族の味方であると実感しています。飲酒問題以外は元気である父に、運転を続けさせてあげることができる機器なのですから。見守る側の不安を解消することもできますし。しかし我が家の問題を振り返ってみても、実際取り付けまでに辿りつける方はごくわずかなのではないのでしょうか。飲酒運転に効果的な機器であるのですから、様々な課題はあるかもしれませんが、ディーラーさんには標準で付けてほしいと、依存症の家族は思います。

東海電子WEBサイト  
【アルコール・インターロック.com】  
<https://alcohol-interlock.com/>

アルコール・インターロック  
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com  
～飲酒運転加害者をゼロに～

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

都会は一家に一台の車両で十分かもしれませんが、田舎は一人一台の車両が普通です。インフラが進んで、田舎の方の足がもっと楽になれば、免許証返納ももっと多くの人が考えられるのではないのでしょうか。また同じく社会問題として、依存症の方の飲酒をそそるような、アルコール9%などのお酒をやめてほしいです。

依存症のことを調べていた時は、父の飲酒をやめさせようと奮闘した時期もありましたが、今はそのような気持ちはありません。本人が飲みたいのであれば飲んでいいと思っています。私のように悩んでいる方は実は沢山いるのではないのでしょうか。もし家族の中にお酒も飲みたいし、運転もしたいという人がいるのなら、アルコールインターロックを付けるべきです。それは本人だけでなく、自分も含め周りの人を安心させるためでもあるからです。きちんとルールを守れない恐れがあるのなら機械に頼り、本人にアルコールインターロック装着を納得してもらう方法を模索しながらでも取る必要があると考えます。



## アルコールインターロックへのさらなる希望

企業と個人のアルコールインターロック取り付けの意味合いは違うと思います。私たち家族のように個人的に装着するのであれば、例えば高齢者見守り機のように、アルコールインターロック内に保存されるデータを即見ることができて、運転状況などがいつでも観察できるようになると嬉しいです。現在データを見るには、専用アプリを購入する必要があり何十万もするとのことだったので個人で買うのはちょっと手が届かない状況です。東海電子のアルコールインターロックは、元々法人向けの業務用であって、管理者用の仕様となっているようですが、今後は個人用として何かもっと簡単にデータを見られる方法が追加されることを希望します。

### 取材ご協力

家族を守る方法の手段として、  
アルコール・インターロックを導入された  
三重県のご一家



東海電子公式YouTube 【導入事例】  
あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり【ALC-ZEROII】  
<https://www.youtube.com/watch?v=CcXm5jBgeTQ>